

# まるざゝ

女 男  
石垣市の「みーどうん」と「びぎどうん」のひろば



ムラサキカタバミ（方言名：ヤハタグサ）【カタバミ科】  
Photo by T.Nakamura

夢育て 人が育てる 共同参画  
参画で 深まる理解 広がる未来  
築こうよ 男女の知恵で 明るい未来

（平成17年度男女共同参画週間入選標語）

発行／石垣市総務部広報広聴課女性行政係  
〒907-8501 石垣市美崎町14番地  
TEL 0980-82-9911（代）  
TEL 0980-82-1243（直）

No.23

2006年 春季号

題字：前大舛良彦  
（石垣市男女共同参画会議委員）

# ～ 2005 石垣市の女性行政 ～

## ■「第2次いしがきプラン」策定までの経過

### 石垣市女性行政推進本部・ワーキンググループ会議開催



全体会議



3グループ会議の状況  
(平成17年11月  
～12月の間の状況)



各部会正副グループ長との会議

ワーキンググループ会議により検討された「素案」について概要説明や意見交換が行われました。

市女性行政推進本部会議開催（平成18年1月17日）  
(市役所内の部課長及び各種委員会の長で組織された会議)



### ◎石垣市パブリックコメント制度により市民意見募集◎

(閲覧期間：平成18年1月25日から1ヶ月間)

### ◎市の考え方を公表◎

市民から提出された意見等に対し市の考え方をまとめて公表しました。

(市政情報センターや市インターネットよりダウンロード)



合同会議開催（平成18年3月8日）

市男女共同参画会議・市女性行政推進本部会議・市ワーキンググループ会議の各代表者で素案について合同会議を開催し、「第2次石垣市男女共同参画計画“いしがきプラン”」が策定されました。



## 男女共同参画講座



講師：瀬地山角氏

## 講演会

テーマ：

「笑って考えよう男女のこと・人権のこと」

講師：瀬地山 角 氏（東大助教授）

主催：石垣市

共催：八重山人権啓発活動地域ネットワーク協議会

と き：平成17年12月4日（日）

と ころ：石垣市民会館 中ホール

講演会から抜粋・・・

『ジェンダーというのは、日本語に訳すと「社会的性差」だとか「社会的文化的性差」といいます。対になる概念は、「生物学的性差」になります。「子どもを産む」、これは女性にしか備わっていない「生物学的な性差」です。しかし、例えば「子育てをする」、これは、石垣市のデータをみても圧倒的にお母さんがしている場合が多いのですが、これが生物学的に決まっているかという決してそうではありません。それは、「生物学的な性差」はなく、所詮人の文化の問題であり、人の社会の問題です。人の約束事の問題にすぎないのであれば、人と人とが相談をして変えていくことができるはず、それが、ジェンダーという言葉が持っていた非常に大きなある種の破壊力のようなものです。

・・・中略・・・

男を雇おうが女を雇おうが、労働力の背後には子どもと要介護老人がいます。それを男だけがあたかもそういう人がいないのかのごとく振舞って働いているわけです。その働き方自体がおかしい。それがおかしいということを企業が認識するような仕組みにならないといけない。

・・・中略・・・

日本の自殺は7年連続して3万人を超えています。先進国では日本がダントツのトップです。この自殺の実に7割が男性です。自殺はもともと60代以上の人で病気を苦にというのが多かったのですが、最近急増したのが、40代と50代の経済的理由を苦にしての自殺です。40代と50代に限ると8割が男性です。自殺は隠れた男性問題です。今の社会というのは、経済的な理由で追い詰められています。つまり父親が馬車馬のように働くというモデルが機能しなくなってきたということの現れだと思えます。

・・・中略・・・

1994年ごろから男女共同参画とよぶようになりました。この問題は女性だけの問題ではなく、男性と女性が共に関わって新しい社会をつくっていく必要があるのだという認識を背景としています。今ある男社会の中に女が入っていくという問題ではありません。

男性と女性が共に関わって新しい社会をつくっていくということを考えなければならないという問題なのです。・・・後略・・・』

## 講演会

テーマ：

「子どもや女性を守る地域のか」

講師：八巻 香織 氏

（ティーンズポスト代表

思春期・家族カウンセラー）

主催：沖縄県・（財）おきなわ女性財団

共催：石垣市

と き：平成18年1月24日（火）

と ころ：双葉公民館



講師：八巻香織氏

県DV防止広報啓発事業の一環として市民を対象に行われ、講師は、被害者支援に携わる専門家の立場から、DVの背景、実態や改善方法等を紹介しました。また、画像を通して自作翻訳の絵本「ファジーのきもち」を朗読し、「大人も子どもも自分の感情を素直に表現することの大切さ、を話されていました。また、被害者は、心が傷つき自分が見えなくなっているので、何が必要か、どうしたいのかを見極めてケアしていくことが必要であると述べられていました。当日は、たくさんの市民が集まり、このテーマに対する関心の高さを感じました。



「ファジーのきもち」

著者：ジル・ヘイスティング



# 「八重山病院産婦人科医師の確保めざして、 —女性団体要請行動—



「八重山病院産婦人科医師確保実現を要請する会」が発足し、早速要請活動開始  
平成18年1月18日



八重山市町会・八重山市町議会議長会等へ要請（1月27日）



市議会にて「決議」



議会を傍聴する女性団体（2月2日）



署名活動



郡民総決起大会



経過報告を送る女性団体（2月17日）

県知事へ要請



17,109名の署名を手渡す（2月20日）



「県立八重山病院産婦人科廃止の恐れ」という県紙の報道が発端で衝撃を受け、この緊急事態に対して女性団体の有志が立ち上がりました。その間、八重山市町会外7団体へ要請行動、市民、団体や街頭での署名活動を展開し、約1ヶ月で総計17,109名の署名を集めました。また、市議会では臨時議会を開き、「八重山病院の産婦人科と脳神経外科の医師確保するよう求める意見書」を満場一致で決議されました。その後郡民による「離島八重山圏域の医療体制をつくる“フォーラム”&八重山郡民総決起大会」が開催され、大濱長照八重山市町会長石垣市長を団長として、女性団体を含む20数名が沖縄県知事、県議会議長宛要請行動を行いました。



# 地域子育て支援センター



↑大川保育所内  
地域子育て支援センター【こっこーま】  
電話：0980-88-5219

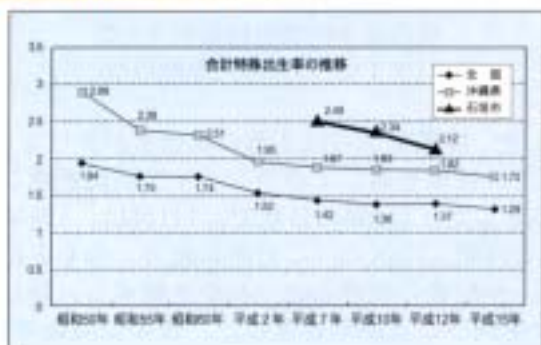
子育て支援センターは、子育てまっさい中（乳幼児）のお母さん、お父さんが子育てが楽しくなるような子育て情報の交換・相談を行なうと共に、親子が自由に遊べる場所を提供する施設です。

すべての子どもたちがすこやかに育つようにみんなで楽しみながら子育てをしていきましょう。



↑オリブ保育園内  
地域子育て支援センター【ゆい】  
電話：0980-82-5096

## 石垣市の合計特殊出生率

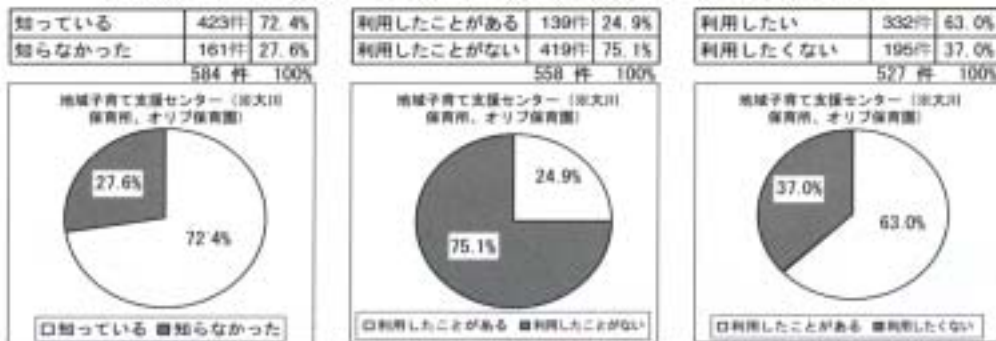


女性が生涯に産む子どもの数（合計特殊出生率）は、全国平均値（平成14年（2004年））1.32人に対して、本市は、2.12人となっています。

現在の人口を将来の維持するのに必要とされている合計特殊出生率2.08人に対して全国平均値は、1.37人と低下しているが、本市においては、平成12年度2.12人、平成14年度（ベイズ推定値）2.12人と横ばい状態でわずかながら減少してきています。

## 石垣市次世代育成支援に関するニーズ調査結果から（抜粋）

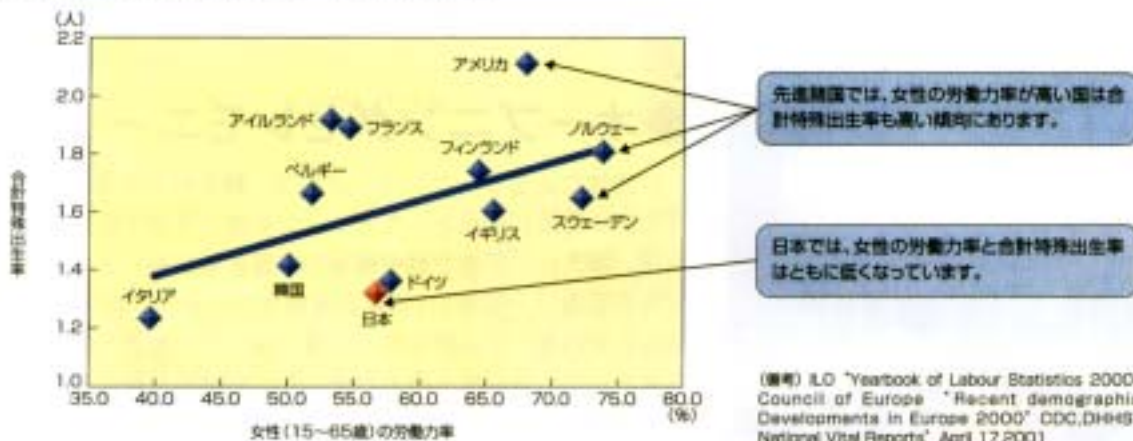
○地域子育てセンターについて（※大川保育所・オリブ保育園）



引用資料：石垣市子育て支援行動計画（平成16年度実施）

## 仕事と子育ての両立

女性の労働力率と出生率の国際比較



先進諸国では、女性（15～65歳）の労働力率の高い国の方が、合計特殊出生率も比較的高くなっています。



# ミズニュース

## 「男女共同参画ヤングリーダー会議」へ参加

宮良妙子さん

(石垣市和牛改良組合女性部員)

目的：全国各地から、近い将来地域のリーダーとして活躍が期待される男女を招き、各地域の若年層における男女共同参画社会づくりに向けての気運の醸成・意識の浸透を図り、全国各地における男女共同参画社会の形成に向けた取組み促進することを目的に行われています。

と き：平成18年2月27日～28日

と ころ：国立オリンピック記念青少年総合センター  
(東京都内)

主 催：内閣府男女共同参画局



↑前列左側：宮良妙子さん  
前列左3人目↑  
猪口邦子内閣府特命担当大臣  
(少子化・男女共同参画担当)

### ……参加報告……

全国から男性も含め87名の参加があり、とても充実した会でした。沖縄県からは2名の参加者がありました。それぞれ各県で地域づくりに邁進されているメンバーばかりで、仕事を通じてボランティア活動を通して男女共同参画社会づくりの為に真摯に取り組んでいる姿に圧倒されました。2日間の日程で、1日目は、「地域を元気にするコミュニティビジネス」と題して、細内信孝氏の話を拝聴、NHKの「ご近所の底力」のもとになった活動をされているという内容は、工業化社会で使わない資源、年配者の知恵とノウハウを継承し、新しい生活文化を創造していこうという内容で、色々な事例やノウハウを伺うことができました。夜の交流会では、猪口邦子内閣府特命担当大臣（少子化・男女共同参画担当）と交流し、内閣府の意気込みを聞き嬉しくなりました。2日目の分科会討論報告では、いろいろな班からの意見を聞くことが出来、私の参加した「女性による地域づくり」という分科会では、私が報告した「祭りを通して子どもたちを参加させることにより、親育て、子育て、地域づくりをしていこう」という内容が取り上げられ、島での暮らしが全国でも注目されたことに感激しました。講評をへて、参加者との今後の連携を深める確認をして解散。東京での会に参加して、島の良さを再認識する研修になりましたが、この島にもまだまだたくさんの課題が山積している、若い女性とともに力を合わせて明るい未来となるよう繋げていきたいものです。

## 第9回 まるごとフェスティバル

かがやき 響き合う やいまの 女 男

みーどっん びぎどっん

～戦後60年 平和を行動する 女 たち 男 たち～



ジュニア一行進曲を歌うまぼろしの中学……  
八重山高等学校附属中学校の皆さん外……

### ◆オープニングセレモニー

27団体によるワークショップには、戦前戦中の食べ物を取り上げ、「そてつの実」からとったデンプンを使っての芋粥や野草を使っての料理、婦人会の変遷や戦中戦後の衣服史等がありました。また、戦後60年企画展「一戦争の100年日清戦争からイラク戦争まで」、戦前・戦中の教科書、千人針やモッコ等の展示や「世界平和の鐘の会」沖縄県支部提供の資料展も行われました。戦跡めぐりのピースバス、講演会や座談会「戦争体験を語る」の開催など、戦争体験が風化しつつある中で、改めて戦争と平和を考える機会となりました。



## ◆ワークショップ

戦後60年パネル展やビデオ放映、  
アニメ上映など色々なワークショップ



自然を染める楽しみ、暮らしを彩る喜び



ソテツの葉のデンプンを使用して作った芋粥や野草の和え物



ばが島め食に感謝  
～食足りてこそゆがふ世～



平和の願いを  
短冊に託して  
平和タペストリーづくり



被服の移り変わり



ピースバスで  
戦跡めぐり



一人で悩まない・  
一人で抱え込まない

戦後60年における慰安婦の実態の紹介

## 子どもコーナー



戦後60年、子どもたちに伝えたい～遊び、今、昔

## 実演コーナー



楽しく踊って元気をキープ



エンパワーメントはCAPの原点

## 資料展示コーナー



戦後60年企画展  
(市立図書館提供)



世界平和の鐘の会沖縄県支部資料展



## ◆講演会・座談会



講演会：「戦場のベビー！」を書き終えて

一日目は、琉球新報社副社長三木健氏による講演会を行いました。戦時中、母の叫ぶ「ベビー！」の一音で救われたタッチちゃん。著書について書くに至った背景を子どもたちに是非伝えたいという思いで書き上げたと述べておられました。日本兵、米兵は個人的にはいい人だけれども、いざ戦争が始まると人間を変えていくのも戦争であり、いつも犠牲になるのは弱者である子ども、女性、老人であるということをお話から知って欲しいと述べておられました。また、戦争体験は意識して掘り起さないと気付かない時代になったと戦争体験を継承することの難しさ、さらに、いつ戦争が起きてもおかしくないような世界の状況に、60年前の戦争を教訓としていくことが大切であると訴えておられました。

二日目の座談会「戦争体験を語る」での語り部は、新正元氏、島村修氏、黒島春氏、南風野節子氏の4名。コーディネーターは、八重山毎日新聞社の松田良孝記者。川平湾奥の海軍の特攻艇の壕掘り作業や、その壕や川平湾を見せないようにするために住民を駆り出しススキやマーニ、カヤ竹などを使って長さ3キロもある目隠しを作らせたこと、防空壕の歌などの紹介があり、また、台湾での教鞭を執っていた頃、戦争が招く大きなひずみで、教師と生徒間に敵対意識が生じたこと、また、戦時中に叩き込まれた教育や教えに対して意識や考え方の切り替えの難しさ等を語っていました。

一方、学徒動員で陸軍、海軍と野戦病院等に配置され、従軍看護婦となって負傷兵やマラリア患者の看護をした時のけが人、病人や死者等悲惨な状況を述べておられ、会場では話を聞いて目頭をおさえる聴衆も見られました。



座談会：「戦争体験を語る」

## ◆エンディングセレモニー

エンディングは、八商工生達によるギター演奏と古波蔵さんのボーカルによって、「月桃」や「星になった子どもたち」（忘勿石）等を合唱。中には、時折涙ぐみながら歌う光景も見られ、みんなで輪になり平和を共有した二日間でした。



### 募集およびお知らせ

#### ○「男女共同参画週間標語・俳句コンクール」作品募集

6月23日～29日は、男女共同参画週間です。私たちの身近なところから男女共同参画について考えてみませんか。ちなみに、平成18年度から「第2次いしがきプラン」がスタートします。

「新しいしがきプラン」と「男女共同参画」への市民の皆さんの理解と関心を深めるために行ないます。男女共同参画に関する「標語や俳句」をつくってみませんか。

応募期間：平成18年5月1日～26日

応募先と問い合わせ先

石垣市総務部広報広聴課 〒907-8501 石垣市美崎町14番地  
TEL：82-1243 FAX：83-1427

#### ○「日本女性会議2006しものせき」開催

と き：10月6日（土）～7日（日） ところ：下関市内

実行委員会事務所 TEL：0832-31-7513

### 表紙解説

「まるざー」とは、八重山方言で円座を意味します。老若男女関係なく、円座になって情報を交換したり、未来を語り合うことを象徴して命名されました。表紙の写真は、米原のヤエヤマヤシ群落で撮影した淡いピンク色で小ぶりの花「ムラサキカタバミ（方言名：ヤハタグサ）【カタバミ科】」。写真提供は石垣市国際交流員トロイ・中村氏です。